

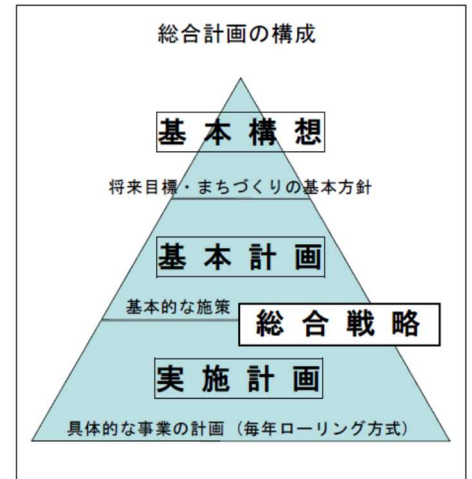
第6次日田市総合計画第3期基本計画策定に向けた意見交換

1. 第6次日田市総合計画第3期基本計画（令和6年度～令和9年度）策定に向けて、これまでの取組や現状に対する課題について（意見交換）

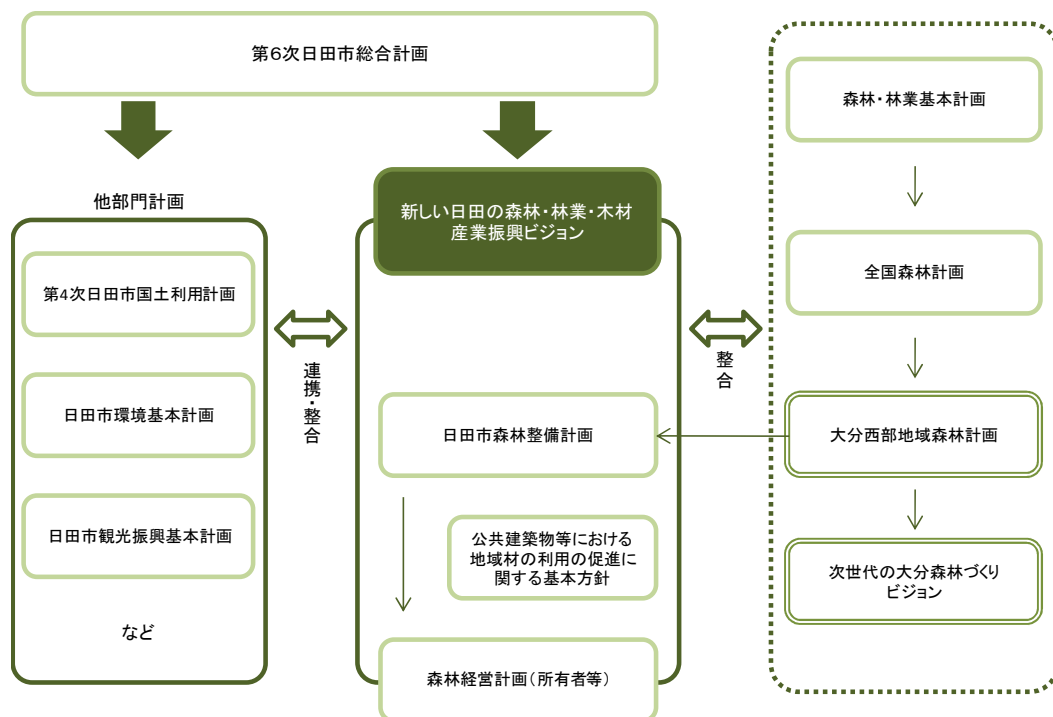
①. 第6次日田市総合計画（平成29年度～令和9年度）の概要について

第6次日田市総合計画は、将来像を「ともにつくる 一人ひとりが主役の ひた」とし、6つの政策の柱を「まちづくりの大綱」として定めています。

また、第6次日田市総合計画の第1期基本計画（平成29年度～令和元年度）の策定にあたっては、日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げた施策を取り込み、市の施策全体を網羅する計画とし、第2期基本計画（令和2年度～令和5年度）の策定にあたっては、本市の喫緊の課題である人口減少問題に関するものを重点施策と定め、この施策を第2期日田市まち・ひと・しごと創生総合戦略として定めています。



②. 日田市の最上位計画となる「第6次日田市総合計画」と林業振興分野の個別計画等の位置づけについて



③. 現行計画である第6次日田市総合計画第2期基本計画～抜粋～（参照：別紙）



やりがいと魅力をつくる ～ 価値を磨き続ける ひた ～

産業振興

3 - (2)

(2) 林業の振興

- ① 多面的機能を発揮する森林づくり
- ② 持続可能な森林経営の推進
- ③ 日田材の需要拡大と販売体制の強化
- ④ 森林資源の有効活用
- ⑤ 市民の森林・林業・木材産業への理解促進、担い手の確保育成
- ⑥ 有害鳥獣被害防止対策の推進

現 状 と 課 題

- ・木材価格の低迷による森林所有者の経営意欲の低下や、林業の担い手不足の問題などで、適切な森林整備が行われず、*₁ 森林の有する公益的機能が低下することが危惧されています。また、令和元年度から *₂「森林経営管理制度」や *₃「森林環境譲与税」が創設され、林業の成長産業化の実現と森林資源の適正な管理の両立が求められています。
- ・森林資源を有効活用するため、「植える、育てる、収穫する、使う、植える」というサイクルを維持することが重要であり、「使う」においては、木材を建築等の資材として利用するほか、紙やボードさらには *₄ 木質バイオマスとして熱や電力利用する *₅「木材のカスケード利用」が求められています。
- ・合板用や木質バイオマス発電用の木材需要の増加が見込まれるため、*₆ 素材生産力の向上と安定的に供給する体制が求められています。
- ・人口減少に伴い、住宅着工戸数が減少し木造住宅用の木材需要が減少することが見込まれており、木材製品の性能の明確化や新用途の開発と活用、さらには市外での大型製材工場の立地に伴う流通の変化に対応する必要があります。
- ・有害鳥獣による林産物の被害区域が拡大しており、捕獲と予防の両面からの対策が必要です。



東京オリンピックパラリンピック施設へ日田材の提供

*₁ 森林の有する公益的機能

森林が持つ機能のうち、水源の涵養や土砂災害防止、快適環境の形成、保健・レクリエーションなどの機能。

*₂ 森林経営管理制度

森林所有者が経営・管理できない森林について、市町村が仲介役となり、森林所有者と林業経営者をつなぐ制度。

*₃ 森林環境譲与税

森林整備を目的とする「森林環境税」を市町村及び都道府県に対して配分するときの名称。

*₄ 木質バイオマス

樹木の伐採や造材の際に発生する枝葉などの林地残材、製材工場などから排出される樹皮やのこずなどの木質の資源。

*₅ 木材のカスケード利用

木材を建材等の資材として利用した後、ボードや紙等の利用を経て、最終段階では燃料として利用すること。

*₆ 素材生産力

木を伐採して丸太を生産する能力。

基本方針

- ・木材生産機能を重視する「生産林」をはじめ、水源*₇ 涵養機能や土砂災害防止等の公益的機能を有する「環境林」など、森林の適正な整備、保全を推進します。
- ・木材の安定的な供給と再生産ができる持続可能な森林経営を推進します。
- ・豊かな森林や人材、技術等の地域資源の活用とネットワーク化等の再*₈ クラスター化を推進し、日田材のブランド化や高付加価値化等を図り需要の拡大につなげます。また、未利用材や*₉ 早生樹、*₁₀ 特用林産物等の森林資源の有効活用を推進します。
- ・森林と林業・木材産業への理解や関心を深めるため、森林環境教育や市民活動の支援を推進します。また、林業・木材産業の担い手対策として、新規参入者の促進や若年層の人材確保・定着を図ります。さらに、木材の特性を活かした住宅や大型木造建造物等の設計や建設に携われる人材の育成に努めます。
- ・有害鳥獣による林産物被害の軽減対策として防護柵等の設置を支援します。また、有害鳥獣捕獲班による捕獲に加え、自衛目的による捕獲を推進します。

主要施策と主な取組

① 多面的機能を発揮する森林づくり

- ・水源涵養の森林づくり、災害に強い森林づくりの推進
- ・市有林活用の促進
- ・生産林と環境林の区分に応じた森林づくりの促進

② 持続可能な森林経営の推進

- ・主伐、再造林の推進
- ・森林施業の効率的な集約化、低コスト林業の推進
- ・森林経営管理制度による森林整備の促進

*₇ 涵養(かんよう)

森林や農地が持つ機能のひとつで、土壌が雨水を溜め込むことで河川の流量を安定させるほか、雨水が地下に浸透することで水質を浄化する。

*₈ クラスター化

関連する企業や機関などがお互いに結びつくことによって、新たな相乗効果を生み出すこと。

*₉ 早生樹

10年から25年くらいの比較的短い期間で収穫が可能な樹種(センダン・ユリノキ等)。

*₁₀ 特用林産物

主として森林原野で産出された産物で一般用材を除く品目の総称。きのこ類、特用樹(和紙などの原料となるこうぞ、みつまた等)、山菜類、薬用植物、樹実(くり、とちの実等)類、樹脂類、木炭などがある。



市民参加の森づくり大会の様子

③ 日田材の需要拡大と販売体制の強化

- ・需要の変化に応じた素材流通体制の整備
- ・品質、性能の明確な製材品の供給体制の構築
- ・公共建築物等の木造化、木質化の推進
- ・木材製品のデザイン力向上
- ・*₁ 大径材を活用した製品開発の促進
- ・地域一体となった日田材のブランド化の推進
- ・海外出荷等への支援



木材の海外出荷

④ 森林資源の有効活用

- ・未利用森林資源の有効活用の推進
- ・多種多様な山づくりと地域活性化を目指す *₂「山業」の推進
- ・しいたけ等の特産林産物の生産拡大

⑤ 市民の森林・林業・木材産業への理解促進、担い手の確保育成

- ・林業・木材産業を支える担い手の確保・育成
- ・森林環境教育の体制づくり
- ・地域内外への情報発信
- ・市民や筑後川下流域住民の参加による森林保全活動の推進
- ・産業観光につながる林業・木材産業の振興

⑥ 有害鳥獣被害防止対策の推進

- ・予防、捕獲対策の強化
- ・獣肉利活用の推進



ジビエ料理教室の様子

*₁ 大径材(たいけいざい)

丸太の最小径が30センチメートル以上のもの。近年、森林資源の充実により大径材の割合が増えている。

*₂ 山業(さんぎょう)

日田の充実した森林資源を活用する中で、地域社会を維持していくため、森林資源や山のフィールドそのものの価値を見直し、持続可能な森林の循環利用などを目指していく仕組み。

関連する主な計画

- ・新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン
- ・日田市農業振興ビジョン
- ・日田市観光振興基本計画
- ・日田市定住自立圏共生ビジョン
- ・過疎地域自立促進計画

目 標 指 標

指標名	基準値 (年度)	目標値	
		令和5年度	令和9年度
素材生産量(年間)	329,757m ³ (平成27年)	414,000m ³ (令和5年)	420,000m ³ (令和9年)
木材製造品出荷額(年間) (家具を除く)	15,673.8百万円 (平成26年)	16,537百万円 (令和5年)	16,657百万円 (令和9年)
有害鳥獣による農林産物の被害額(年間)	42,724千円 (平成27年度)	19,243千円	19,243千円
新規林業就業者数(年間)	17人 (平成30年度)	20人	20人

第6次日田市総合計画第3期基本計画策定に向けた意見等

総合計画・総合戦略の策定にあたり、①見直し作業が進められていること、②市民の意見を広く募っていること、③見直し作業を進めるにあつての資料となることをお伝えしたうえで、市民の意見を集約することとしています。

「第6次日田市総合計画第2期基本計画」にあります「(2) 林業の振興」施策（別紙：参照）を推進するために、これまで実施してきた事業等の取組に対する、各委員の考える評価や今後の方向性について意見がありましたら、下記にご記入ください。

なお、個別評価（K P I の達成状況）などを問うものではありません。

(氏 名)

(意見記入欄)